

各教科等で行う道徳教育は、どのような手順や視点で進めればよいですか。

★ ポイント

各教科等の特質に応じて道徳性を養うことが必要です。そのために、各学校では各教科等で行う道徳教育の視点と内容を明確にする必要があります。

1 各教科等の指導を通じて道徳性を養うための観点

各教科等で行う道徳性を養う観点として、『中学校学習指導要領 解説編(抄)』(平成27年7月)において、次の3点が示されています。

【資料】各教科等の指導を通じて道徳性を養うための観点

教師の態度や行動による感化

- 教師の言葉や生徒への接し方などは、生徒の道徳性が育つよりよい学級の雰囲気や環境をつくるとともに、生徒の人格の形成に直接、間接的に影響があります。
- 教師の授業に臨む姿勢や熱意は、授業中の様々な態度や行動となって現れます。
⇒ 生徒の態度や行動にも反映し、学級の雰囲気をつくります。
【例】 真理を学ぶことへの姿勢は、教師の姿から学ぶことが多いです。
- * 教師は、授業内容の指導に力を入れると同時に、道徳科の目標や内容に示されている精神を自らが授業の中で実践するよう心掛ける必要があります。

道徳教育と各教科の目標、内容及び教材との関わり

- 各教科等の目標や内容には、生徒の道徳性の育成に関係の深い事柄が含まれています。
- 各教科等において道徳教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道徳教育に関わる側面を明確に把握する必要があります。
- それらに含まれる道徳的価値を意識しながら指導することで、道徳教育の効果も一層高めることができます。

学習活動や学習態度への配慮

- 各教科等では、それぞれの学習場面で活動への取組の姿勢が育まれ、学習態度や学習習慣が育てられます。
- 生徒が伸び伸びとかつ真剣に学習に打ち込めるように留意し、学級の雰囲気や人間関係に思いやりがあり、自主的かつ協力的なものになるよう配慮します。
- 学習態度の習慣化が必要になります。
 - ・ 話合いの中で自分の考えをしっかりと発表し、友達の意見に耳を傾けること
 - ・ 各自で、あるいは協働して課題に最後まで取り組むこと⇒ 各教科等の学習効果を高めるとともに、望ましい道徳性を育てることにもなります。

2 各教科等で行う道徳教育の視点と内容

各教科等で道徳教育を進めるための視点と内容については、次の点を参考にしてください。

- (1) 各学校の具体的な道徳教育の重点目標を設定します。

(例) 相手のことを思いやり、しっかりとした規範意識をもった人間に育ってほしい。

〈参考にすべき事項〉

教育関係法規の規定，時代や社会の要請や課題，教育行政の重点施策，学校や地域の実態と課題，教職員や保護者の願い，子供の実態と課題など

- (2) 道徳教育の重点目標のポイントを明確にします。

(例) 「思いやり，感謝」，「遵法精神，公德心」

- (3) 道徳教育の重点目標のポイントに関わる道徳の内容（重点内容項目）を明確にします。

(例) B－(1)，C－(1)

- (4) 重点内容項目に関わる道徳科以外の指導を明確にします。

(例) 情報モラル学習で，遵法精神について指導する（第1学年技術・家庭科）。

職場体験学習で，勤労の尊さや礼儀について指導する（第2学年特別活動）。

- (5) 道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にするために，別葉を作成します。

* 具体的な内容については，当センター「指導資料 道徳 第31号」（平成27年10月発行）をご覧ください。